



# YES 通信

〒819-1116 糸島市前原中央2-2-22波多江ビル2F 電話 321-4119 2024年6月号

## 「本の読みかた」を教える親のセミナー

私も仕事柄、タイトルにあるような質問をよく受けるので、「この問題についてはお父様へお尋ねするのですが、今回は Yandemy (ヨンテムイー) という読書教育サービスの会社を経営なさっている笹沼颯太氏のブログにとても素晴らしい事が書いてありましたので紹介したいと思えます。

そもそもなぜ私が速聴読をやっているのかというと、私自身が学生の頃、読書をしていなかったことを一番悔いているからです。私は社会人になってから読書の必要性を知り、それから読書をするようになりました。自分の子供の名前を「文香」にしたほど読書の必要性を痛感していたのです。その甲斐あってか娘は読書習慣がついていました。するとどうでしょう、娘は読書がとても速くなっただけです。家内も早かったのですが、小さいうちから読書の習慣が付くと早く読めるようになるのだと実感しました。そんなことがあり、子供達には勉強以上に読書の習慣をつけて欲しいと思ったのです。なので、速聴読ではとにかく本を読む習慣を身につけて欲しいと思っています。「ここでも本を読まない」という言葉にはいろいろな反応が生まれて、い、い、い保護者様とも意見交換をさせていただいています。

本を読んでいる姿を見せるという事です。この件に関して笹沼氏は読んでいる振りでもよいからとも書いてありました。それくらい子供の前で親が本を読むというのは大事な事なのです。子どもに本を読め本を読めと言いつつながら親が全く本を読まなかったら、お子様はどう思うでしょう。かつ子どもは親の言うことは聞きません。しかし、親がやっていることは真似するものなのです。

後日談ですが、私の母は読書が大好きだったそうです。しかし、姑が厳しかったらしく読ませてもらえなかったと愚痴を言っていました。父も読書が大好きだったようですが、早朝とか夜中に読んでいたみたいです。他界する前の父が入院してからは、母が読んでいる本を借りて、読むことが出来てとても嬉しかったそうです。これも何かの縁、こんな経験があったからこそ、今速聴読で多くの生徒さんとおつながることが出来ているのです。話が少し逸れてしまいましたが、次に私がアドバイスするのは、大きな本屋に時々お子様を連れて行ってあげてくださいということです。大きな本屋さんには様々な本があり、きつとお子様が入る本があると思っっているからです。笹沼氏はこれに対して、図書館は行くだけ、歩くだけでも良いとおっしゃっています。たくさん本があることや、テーマ別

に並べられた書籍コーナーを見るだけでも良いと書いてありました。糸島市の図書館はあまり規模が大きくないので、展示スペースやテーマ別のコーナーもそれほど多くはありませんが、大きな本屋さんに行けば、たくさん展示スペースやテーマ別のコーナーもありますので、今後はこのような説明もしたいと思いました。読ませようとするのではなく、本に少しでもいいから興味を持ってもらうことを大切にすることを重視だと感じました。

会社の Yandemy (ヨンテムイー) というのもまさにそんなことからつけた社名なのでしょう。このような方と同じような夢を持っているのはとてもありがたいことです。もし、お子様に読書習慣がついていないようでしたら、是非お子様が本好きになるような対応を考えたいですね。人生において本が好きになるかどうかはとても大きな差になるような気がしてなりません。



# やる気相談室

## 糸島

### 算数検定、漢字検定を受験するメリット

8月に漢字検定と算数(数学)検定を実施します。毎年8月と2月に検定を実施しています。今回は、検定をより効率よく有意義に受験していただくために受験する意義について解説してみたいと思います。

のは受験ですが、受験は中学入試、高校入試、大学入試とそうそうあるものではありません、検定という小さなピークをたくさん作りその都度復習することで学力の定着を担保できるのです。

特に小学生の場合は中学のように定期テストもないので、復習する機会が全くなく、習ったことをすっかり忘れて中学に進学してから困る生徒もいますので注意が必要です。検定で復習すればそのような不安もなくなります。

3番目のメリットは、受験に有利になるということです。大学入試や高校入試でも検定取得者に対して優遇措置をとっている大学や高校が増えてきています。特に上位の級だと主体的に学んでいることを評価してもらえるので有利になります。それだけではなく、早めに検定に取り組みたい、それ以外の勉強に集中できるという点も余裕が生まれます。

4番目のメリットは、得意な科目ならば先取授業がスムーズにできるという点です。

2番目のメリットは復習になり学力の定着が図れることです。勉強が一番定着する

とです。先取授業という大変な事のように思う方も多いのですが、得意な事を先取で勉強するのは案外楽しいのです。特に小学校の内容は得意な生徒にとっては退屈なので先取学習をすることで、モチベーションの維持に寄与することや、やり甲斐にもつながります。また、前倒してやっているからこその壁にぶつかっても余裕を持って対応できるのです。楽しいゲームもどんどん向上するから楽しいのです。ステップアップに制限を設けたらゲームも楽しくありません。勉強に制限を設けることは果たして良い事なのでしょうか？

検定を通じて強みを伸ばせたらとても素晴らしいと考えています。

検定を通じて強みを伸ばせたらとても素晴らしいと考えています。



#### 書籍紹介 算数力は小3までに育てなさい 田邊亨 著

この本の著者である田邊氏は、私にそろばんの良さを教えてくれた恩人でもあります。以前のYES通信でも田邊氏のパズルの本を紹介させていただきました。田邊氏が経営するりんご塾は10年連続で算数オリンピックに入賞者を出すというとても素晴らしい塾長さんです。その田邊氏が算数力を育てるならば小3までに育てなさいとおっしゃっているのです。得意な事や好きな事は早いうちに取り組みことで余裕を持って取り組むことができるし、楽しくモチベーション高く取り組めるのです。それに加えて小さいうちに壁にぶち当たる経験をさせ、それを乗り越えるという体験をさせることが大切だと書いてあったのはとても納得させられました。上の学年が上がれば上がるほど忙しくなっていきますし、結果も求められるようになります。早い段階で算数力を鍛えることで、なかなか出来ない体験や結果が出ない体験を積極的にさせるという事の大切さはとても重要な事だと感じました。九大の理系の学生は小さい頃にパズルや将棋に熱中した学生が多いです。実際、私も理系でしたがパズルやブロックが好きでしたし将棋等のゲームも良くやっていました。いい意味で考える楽しさを知ることが出来たのだと考えています。算数に興味があるようなら楽しめる時期に算数に本気で取り組んで欲しいと思います。

